

高校の廃校が地域にどのような影響を与えるか、 そして高校存続のために今、何が必要なのか

愛媛県立長浜高等学校
上田諒哉、上満眞子、武田宗



•作品の要旨

今、日本の地域が抱える大きな問題の一つに、**学校の廃校による地域の衰退**があります。そこで私たちは、本校が廃校になってしまった場合、長浜地域にどのような影響が及ぶかについて経済的な視点で調査するとともに、本校を廃校の危機から救う方法を他校の事例から考察しました。その結果、本校JR通学生の年間利用料金は**約825万円**で、一般人の合計金額よりも**100万円以上多く**、本校が廃校になれば**JRの減便**、あるいは**廃線**の可能性が示唆されました。また、長浜高校の教育活動に伴う地域への経済波及効果は、年間**約3000万円**に達し、長浜高校が廃校になった場合、地域経済は深刻な打撃を受けると予想しました。それを防ぐためには、全国募集、寮の設置、国際交流といった取組が効果的であることが分かりました。高校生自身が、自分の学校や地域が抱える問題について主体的に向き合うことは、今後地域社会が抱える問題の突破口を見出すことにつながると考えています。

•受賞コメント

私たちはこの作品のために、駅で1日中張り込んだり、徹夜でデータをまとめたりしました。もうやめたいと思ったのは一度や二度ではありません。でも、作品が完成して提出したときには、大変な満足感を得られました。そして、このような賞まで頂けて感激です。今回はこのような機会を頂き、本当にありがとうございました。

審査員からのコメント

高校内の水族館という他にはない最大の特徴を生かそうとしており、高校生が自身の高校の廃校について真剣に考え、今後すべきことを類似事例とすり合わせながら経済効果についてもわかりやすく述べている。学校や先生など大人からのアプローチではなく、生徒だけのアプローチにより地域住民の理解や協力が得られていると感じられた。また、他の廃校寸前のシチュエーションに対応し、最適解を探求する材料となるだけでなく、少子高齢化社会の中で学校のあり方とは？とマンモス校でも考えさせるきっかけとなり得ると考える。

以上の点が審査項目とマッチしたため、選出させていただいた。

